

不登校児童生徒

みやこのじょう
宮崎・都城市

大学内に行政主体の適応指導教室

居場所づくりへ

宮崎県都城市は本年度から、南九州大学と協働し、不登校児童生徒のための適応指導教室「青空ラボ」を都城キャンパス内に開設している。こうした教室を行政主体で大学内に設置するのは全国初の

下野氏ら「青空ラボ」訪問

試み。公明党の下野六太参院議員はこのほど、党市議団（佐藤紀子団長）らと共に、青空ラボを訪れ、教職員やボランティア支援員として奮闘する同大学子ども教育学科の学生と意見を交わした。



青空ラボの取り組みについて学生から話を聞く下野氏（左から3人目）ら

青空ラボの開設は、年々増加傾向にある不登校の児童生徒が、親や教師とは別に、年齢の近い大学生らと関わりながら過ごせる「居場所づくり」が狙い。市教育委員会の調査では、昨年度の不登校児童生徒数は小学生120人、中学生240人。一昨年度から2年連続で合計300

学生が体験活動など支援

人を超えており、対策支援の強化が喫緊の課題となっている。市は昨年11月から、試行的に青空ラボの活動を開始。今年4月から本格的な不登校対策支援に乗り出した。現在、市内の小中学生13人が登録。毎週月、水、金曜日の午前9時30分から同11時30分まで教科学習をはじめ、体育や工作、体験活動などを通じて、子どもたちが主体的に学ぶ力と社会性の向上をめざす。また、保護者の教育相談に対応する体制も構築している。

同ラボの特長は、南九州大学子ども教育学科の学生11人で構成する不登校支援チーム「なないろ」が中心となって、市教委の教育相談員らと共に、子どもたちの支援に当たっている点だ。チーム内には、同大学で取得できる日本教育カウンセラー協会認定の資格「ピアヘルパー」（仲間を助ける人という意味）を持つ人もおり、支援に関わる学生に対しては、大学から単位取得も認められている。



農業体験で夏野菜の苗植えを行う児童生徒ら（市教育委員会提供）

なないろで会長を務める土持基継さん（左）は「最初は心を閉ざしていた子どもたちと、一緒に遊べる関係になれたことがうれしい。教員をめざす僕たちにとっても学びのある教室です」と笑顔を見せていた。

◇ 公明党市議団は10年以上前から、不登校児童生徒への支援策強化について、定例議会などを通じて市に早期対応を求めてきた。

意見交換の場で下野氏は「特性を持つっている子も含め、一人一人の可能性を信じ、達成感を育んでいける素晴らしい試み。全国の先駆けとして模範となれるよう、国、県、市と連携して全力で後押ししたい」と、情熱を持って子どもたちと接する学生にエールを送っていた。

©公明新聞